

「無人化は困る」という地域の声を聞いても、

「無人化すると障がい者が乗れなくなる」という声を聞いても、

津久見駅で無人化された時間帯に死亡事故が起きても、

JR九州は駅の無人化を見直そうとしません。

「駅員さんにどれだけ助けられたことか」一車いすでJRを利用してきた吉田春美さんはつぶやきました。困っている人や危険をAI機器で感知しても、その場に人がいなければ助けられないのです。

JR九州が税金から巨額な支援（3877億円）を受け取っているのは、そして国鉄から引き継いだ駅周辺一等地で莫大な利益を上げて

いるのは、安全に安心して利用できる公共交通を提供するためです。JR九州は地域路線の切り捨てや駅無人化を一方的に進めることはできない公共的な役割を担う企業なのです。

それにもかかわらず、鉄道部門が昨年度「31億円の黒字」になったと発表した直後、7月から高城、大在、坂ノ市、中判田の4駅を無人化し、鶴崎駅も夕方を除いて無人化すると発表。しかも社長は、今後「200億円以上」の黒字を目標にすると会見で述べています。

その黒字は、利用者や駅員さんを犠牲にした結果に他なりません。JR九州に必要なのは地域住民の声を真剣に受けとめることです。

JR駅の無人化に反対する 市民集会-地域の公共交通を守るために

7月16日(日)15時 ホルトホール大分3階302・303会議室



- ・駅無人化反対訴訟の報告 平松まゆき弁護士
- ・JR津久見駅事故について 徳田靖之弁護士
- ・駅無人化反対訴訟原告のお話
- ・当事者・地域・支援者の声(全国から 木村英子参議院議員他)
- ・これからどう取り組むか(方針の提案)

オンライン参加ご希望の方はメール(info@daremoga-oita.net)でご連絡ください。

7月6日、大分地裁で視覚障がい者が意見陳述

「多い転落事故」「列車の乗り降りは命がけ」

大分地方裁判所で駅の無人化に反対する裁判が行われています。障がいのある人たち6人が原告となって、駅無人化は駅を利用しづらくし、危険にすると訴えています。7月6日には視覚障がい者の意見陳述が行われ、「転落事故が多く、列車の乗り降りは命がけ」、「社会参加をあきらめる世の中になってほしくない」と訴えました。

だれもが安心して暮らせる大分県をつくる会・JR駅無人化反対訴訟を支援する会

連絡先 大分市都町2丁目7-4 303号 在宅支援ネット気付 TEL 097-513-2313 FAX 097-529-7212